

空き家を利用したまちづくり
～まちを変える農業シェアハウス～

1. はじめに

私たちの住む南部町は、観光農園が主要な産業です。この特性をいかし、南部町では約8年前に「ヴァーチャルビレッジ達者村」構想を立ち上げ、街の農業観光を担ってきました。しかし、南部町においても、若者の農業離れと同時に後継者不足がとても深刻な状態となっており、町の活性化が止まっている状態にあります。

そこで、私たちはこれらの問題を解決することで、若者が増え、地域が活性化することができるのではないかと考えました。

そのための方法として、南部町で情報提供をしている「空き家バンク」を活用し、「農業シェアハウス」を作ること考えました。

2. 農業シェアハウス

はじめにでも説明した通り、南部町では若者の農業離れおよび、後継者不足が問題点としてあげられます。そしてそれと同時に「空き家」が増えているのです。空き家が増えることで、街の景観や環境の悪化などの問題が浮上してきます。

そこで、その空き家を有効活用できれば「空き家の減少」および「若者の農業離れや後継者不足」の問題が解決できると考えました。

その方法が「農業シェアハウス」です。

農業シェアハウスは、南部町にある空き家を利用することで場所を確保し、町と不動産と手を組み、この構想を実現させたいと思っています。また、部屋だけではなく、南部町にある「農家」や「観光農園」、「耕作放棄地」などを斡旋し、「農業を本気でやりたい人」「農業に興味でやりたい人」「自給自足をしたい人」などのさまざまなニーズにこたえられるような「農業シェアハウス」を作りたいと考えています。

3. 農業シェアハウスによるメリット

空き家を有効活用できる。

農業に興味がある若者が集まり、町が活性化する。

農業後継者の育成や農業に対し興味を持つ人が増え、農業従事者が増える。

農業が気に入り、町への定住者が増える。

町全体を取り込むことにより、交流が広がり、町が活性化する。

第一次産業だけではなく、集まった人が六次産業化「生産 加工 販売」ができる環境ができる。

4. 農業シェアハウスを行うにあたっての課題

不動産関係の法律をクリアすること。

町全体に協力を求めること。

空き家の持ち主の了解を得ること。

町の空き家バンクの使い方を周知させる。

5. 私たちの目指す町づくり

私たちはこの活動を通し、最終的には町の活性化及び、町への定住者を増やすことを目標としています。そして、最終的には、全国でこの構想が認められ、全国における農業従事者増加や農業を生業としていく若者が増えることを目標とし、その最初の一步を踏み出したいと考えています。

第一次産業である農業は日本と絶対に切り離せない産業です。そして、全国には農業をやりたい若者もたくさんいると思います。そのような人々の夢をかなえるのと同時に、日本のこれからの農業を支える若者を増やしたいのです。

そして最終的には、このシェアハウスの構想を全国の農村などに広げ、農業従事者の獲得や六次産業化、町や村の活性化に役立てるようになりたいと考えています。

